

- 問1 『源氏物語』を書き、平安時代の国風文化を代表する女性作家は誰？
- 問2 平安時代、地方の政治が乱れる大きな原因の一つとなった制度の廃止を何という？
- 問3 平安時代初期に最澄が天台宗の総本山として延暦寺を建立した場所はどこ？
- 問4 平安時代初期に唐から天台宗を伝え、比叡山に延暦寺を開いた人物は誰？
- 問5 「この世をば わが世とぞ思う…」と詠み、当時の絶大な権力を誇示した人物は誰？
- 問6 平将門が乱の中で自らを称し、独立した政権を立てようとした称号は何？
- 問7 平安時代初期、朝廷の支配が及びにくかった日本の北東部地域を何という？
- 問8 平安時代中期に『源氏物語』を執筆し、一条天皇の中宮彰子に仕えた女性作家は誰？
- 問9 遣唐使の停止以降、中国文化を日本の風土に合わせて日本独自に発展させた文化を何という？
- 問10 1086年に天皇の位を譲った後、上皇として御所外から政治の実権を握った人物は誰？
- 問11 平安時代に日本独自の文化が発展したきっかけとなった、遣唐使が停止された時期はいつ？
- 問12 平安時代後期に貴族の間で流行した、死後に阿弥陀如来の助けを借りて極楽浄土へ生まれ変わることを願う考え方を何という？
- 問13 紀貫之らが中心となって編纂した、日本で最初の勅撰和歌集を何という？
- 問14 桓武天皇から命を受け、蝦夷を服属させるために派遣された武将は誰？
- 問15 平安時代初期に、唐から真言宗を持ち帰り、金剛峯寺を建立した僧は誰？
- 問16 空海が開いた高野山の金剛峯寺が総本山である、平安時代に広まった仏教の宗派を何という？
- 問17 794年に山背国へ平安京を遷都し、奈良時代の政治を立て直そうとした天皇は誰？
- 問18 平安時代に、地方に赴任せずに京に留まったまま役職だけを持つ国司のことを何という？
- 問19 平安時代末期、朝廷による平定が進んだ東北地方で、独自の勢力を築き上げた一族を何という？
- 問20 平安時代末期、東北地方を拠点として独自の勢力を築いた一族を何という？
- 問21 平安時代末期、武士として初めて任命された最高位の官職を何という？
- 問22 939年、関東地方を拠点として朝廷に反旗をひるがえした武士は誰？
- 問23 清少納言が記した、宮廷の生活や自然について独自の感性で書きつづった日本を代表する文学形式は何？

## 答え合わせ・解説

問1	答え 紫式部	紫式部は、藤原道長の娘に仕えながら、『源氏物語』を執筆しました。この物語は、主人公である光源氏の栄華と没落を通して、人間の心理や当時の貴族社会を克明に描き出しました。
問2	答え 遣唐使廃止	894年の遣唐使廃止によって日本は中国との公的な外交関係を絶ちました。これにより、中央政府の関心は外交から国内統治へと向かいましたが、地方へ派遣された国司たちが現地に赴かず、京に留まって私腹を肥やすといった政治の腐敗が目立つようになりました。
問3	答え 比叡山	比叡山は平安京（京都）の鬼門の方角にあり、都の守護を担うという意味も持っていました。ここに開かれた延暦寺には多くの僧侶が集まり、仏教の研鑽を積む拠点となりました。
問4	答え 最澄	最澄は唐へ渡り、天台宗を学んで帰国しました。比叡山に延暦寺を建立し、厳しい修行を通じて多くの高僧を育てました。また、大乘仏教の戒律を授けるための「大乘戒壇」の建立を目指しました。
問5	答え 藤原道長	藤原道長はこの戦略を最大限に活用しました。自身の子や孫が天皇となることで、天皇の代理である「摂政」や「関白」として政治の全権を握りました。その自信と誇りを象徴するのが「望月の歌」であり、満月のように欠けるものない権力を持っているという自負を表現しています。
問6	答え 新皇	平将門は勢力範囲を支配下におくと、朝廷から認められない権力として、あえて「新皇」という称号を名乗りました。これは単なる地方の反乱を超え、中央政府である朝廷に対する真向からの挑戦を意味していました。
問7	答え 東北地方	東北地方には、朝廷の支配に従わない人々が生活しており、朝廷側は彼らを「蝦夷」と呼んで服属させようとしてきました。朝廷は多賀城などの拠点を作り、軍事的に征討を試みました。
問8	答え 紫式部	紫式部は、中宮彰子に仕える女房として宮廷で生活しながら、全54帖からなる『源氏物語』を執筆しました。この作品は、貴族社会の人間模様や恋愛、栄枯盛衰を細やかに描いた世界文学の傑作です。また、彼女が日々の生活や宮中の様子を書き留めた『紫式部日記』も、当時の歴史を知るための貴重な資料となっています。
問9	答え 国風文化	国風文化は、仮名の発明による物語文学（源氏物語など）の発展や、寝殿造のような日本独自の建築様式が特徴です。貴族の生活の中で、四季の移ろいや美しさを愛でる優雅な芸術が発展しました。
問10	答え 白河上皇	白河上皇は1086年に天皇の位を子に譲り、自らは上皇となって政治を執り行いました。これを「院政」といいます。これにより、摂関家ではなく天皇や上皇が権力の中心となりました。
問11	答え 9世紀末	894年、菅原道長の建議により遣唐使は停止されました。これにより、大陸からの直接的な影響が減り、日本の風土や日本人の感性に合った文化が育まれるようになりました。これが国風文化の始まりです。
問12	答え 浄土信仰	浄土信仰は、阿彌陀仏を信じ、その名（南無阿彌陀仏）を唱えれば、死後に極楽浄土へ行くことができるという教えです。当時の貴族たちは、自分の館や寺院の建物に阿彌陀仏を安置し、豪華な飾りつけをすることで、現世に極楽浄土を再現しようとしてきました。平等院鳳凰堂はその代表例です。
問13	答え 古今和歌集	『古今和歌集』は、紀貫之らが中心となって編纂した、日本で最も古い勅撰（天皇の命令による）和歌集です。当時の洗練された貴族の生活や自然への思いが反映されており、後の文学作品に多大な影響を与えました。仮名文字を用いて書かれたことが特徴です。
問14	答え 坂上田村麻呂	坂上田村麻呂は、桓武天皇により「征夷大將軍」に任命され、大規模な軍を率いて東北へ向かいました。彼は蝦夷の指導者であった阿豆流為らを降伏させ、朝廷の支配圏を現在の岩手県あたりまで拡大させました。
問15	答え 空海	空海は唐で密教を学び、帰国後に真言宗を開きました。密教とは、高度な修行と儀式を重んじる仏教の宗派です。彼は嵯峨天皇から高野山を下賜され、そこに金剛峯寺を建立して修行の拠点としました。多くの弟子を育て、学問の面でも大きな足跡を残しました。
問16	答え 真言宗	真言宗は、空海が唐から持ち帰った密教の教えに基づく宗派です。呪文や曼荼羅（まんだら）を用いて悟りを開くことを目指す点が大きな特徴です。高野山にある金剛峯寺は、現在も真言宗の総本山として広く知られており、当時の貴族たちからも厚い帰依を受けていました。
問17	答え 桓武天皇	桓武天皇はまず長岡京への遷都を試みますが失敗し、その後794年に山背国（現在の京都）へ平安京を遷都しました。これにより、旧来の仏教勢力との結びつきを断ち切り、新たな環境で朝廷の威信を取り戻そうとしました。
問18	答え 遙任	遙任（ようにん）は、国司が自らは現地に行かず、代わりに代官である「目代（もくだい）」などを派遣して統治させる形態です。これにより国司は責任を回避しつつ収益だけを確保することができましたが、地方政治の腐敗を加速させる要因となりました。
問19	答え 奥州藤原氏	奥州藤原氏は、藤原清衡から始まる4代にわたる一族で、平泉を中心に強大な経済力と軍事力を持ちました。金などの産出や対外貿易によって莫大な富を蓄え、中尊寺金色堂に代表される華やかな文化を築きました。
問20	答え 奥州藤原氏	奥州藤原氏は、豊かな金の産出や馬の取引、大陸との貿易などを通じて莫大な富を築きました。この富を背景に、平泉の地に壮大な寺院群を建立し、仏教文化を花開かせました。
問21	答え 太政大臣	1167年に平清盛がこの地位に就きました。武士が朝廷の最高職に就くことは当時としては異例のことであり、平氏一族が貴族社会の中枢に深く入り込んだことを示しています。
問22	答え 平将門	平将門は、関東の有力者として朝廷の支配に対して反乱を起こしました。勢力を拡大した将門は、自らを「新皇」と名乗り、独立した政権の樹立を目指しました。この乱は、当時の朝廷に大きな衝撃を与えました。
問23	答え 随筆	随筆（エッセイ）は、決まった形式にとらわれず、作者が思ったことや見たこと、季節の移り変わりなどを書き記す形式です。清少納言の『枕草子』はその代表格であり、彼女の鋭い視点やユーモア、時には批判的な意見なども書き込まれています。かな文字が使われたことで、日本語特有のリズムや情緒を豊かに表現できるようになりました。